

<第三种郵便物認可>

# 正論

▲▲▲  
不況で大学の財政難深刻  
▼▼▼  
私が現在教鞭をとっているカリフォルニア大学のサンディエゴ校は太平洋を見渡す広大な丘のうえに建っていて、ノーベル賞受賞者を八名も擁し、世界一の海洋学部なども有する総合大学であるが、今年には新着の教官が半減していて、私のような客員教授を含め全て四十名前後しか迎えられなかったという。

力経済の不況に起因するのであるが、軍事産業や巨大科学技術に依存してきたカリフォルニアの経済危機はとくに重症であるだけに、州立大学であるカリフォルニア大学の財政難も深刻なようである。その結果、たとえば図書館の雑誌購入費が一〇%の予算カット、教官の給与も一律五%カットという厳しさである。その一方で、この秋の新年度からは授業料を三四%も値上げするというので、学生諸君にとっては大変な負担増である。

米カリフォルニア大客員教授 中嶋 嶺雄

## 学ぶ点の多い米大学院教育

る。広大な敷地に大きなパーク・スペースがあるにもかかわらず学生や教官からも半年で一五〇―二五〇米の駐車料を徴収して財源に当てていることなども、

日本では考えられないことである。日本の場合、いかに不況であっても、国立大学の場合などは、大学全体の予算が対前年比で縮小されるということとはまずないだろう。

認知心理学の世界的權威でもあるアトキンソン学長とは旧知の間柄なので、しばしば話しする機会を得ているのだが、大学の財政難には同学長も苦心して居られるようだ。カリフォルニア大学全体を見渡してみても、十分な研究・教育業績をあげていないと評価された研究所、学部、学科、プロジェクトなどが今年から次々に閉鎖もしくは縮小されており、学内の

### 熱心な学生相手に真剣勝負

設備・備品の更新もままならない状況である。

▲▲▲  
米西海岸との協力関係を  
▼▼▼

こうした現状を考えれば、日米経済協力関係の一環として、もしくはわが国の国際貢献の一部として、アメリカの大学、とくにカリフォルニア大学のような西海岸の有数な大学との研究・教育上の協力関係はもっと深められねばならないであろう。サンディエゴ校の場合、実際に授業を受け持つ日本からの客員教授としては私が初めてのケースであったようであるが、韓国などが研究・教育交流にきわめて積極的であることに比して、日本側の努力は決して十分だとはいえない。日米間の研究・教育上の交流は、どうしても東部の最高学府と結びつかざるを得ない

のであろうし、私自身もハーヴァード大学の東アジア・中国研究などに馴染んできた者の一人であるが、これから本格的に開講するであろうアジア・太平洋時代を考え、アメリカ西海岸との協力関係は無視できない。

カリフォルニア大学サンディエゴ校の国際関係・太平洋研究大学院（IR/PS）である。従来のアメリカのアジア学・中国学などは大西洋とヨーロッパを経由し、西洋の学問体系を通じてアジアや中国を見ようとしているのであって、太平洋の側から直接的にアジアや中国を見るべきだというわけでもある。方法的にも従来の伝統的な学問とは違って、データをコンピ्यूターに入れて数量モデルを作ったり、先に理論を組み立てておいて政策モデルを選択したりといった政策科学的な学問傾向がサンディエゴでは主流を占めている。このような新しい試みが十分に成功しているとは私には思えないが、東部アメリカの学問に挑戦しようとするサンディエゴなりの新しい息吹が感じられなくはない。



ンに基づく新しい地域研究の拠点をつくらうとの意気込みで一九八七年に設立されたのが、私のいる

▲▲▲  
学生が評価のアンケート  
▼▼▼  
このような場所で私は冬学期と

春学期に「中国の対外政策とアジアの国際環境」と題する大学院の授業を受け持ち、長い夏休みの後に、今帰国を目前にしているのだが、こちらでの教育体験は私自身にとっても大変貴重なものであった。毎週一回とはいえ、日本や韓国の官庁や企業などが派遣する専門研修コース（ICAD）の学生を含めて約二十五名の大学院生を相手に、間に十程度の休憩を挟むだけで三時間、英語で授業をするのは、自分自身を試すことでもあり、充実した期間であった。

あらかじめ詳細なシラバス（講義要録）を作り、参考書も様々な指定して授業を進めるのだが、学生も教師も真剣勝負で、もとより理由なき休講や遅刻は許されない。授業の後のオフィス・アワーには熱心な学生が質問や相談に研究室へやって来る。そして学期が終わると、教官の授業内容を、たとえば当該科目についての教官の学識、教える方、討論を活発に組織できたかどうか、といった細目と総合点で学生たちが評価するアンケートが配られる。これらのどの点をとって、日本の大学院と比べて大きな違いがあるのではないか。わが国でも大学院教育の拡充が叫ばれている昨今ではあるが、大学院制度の歴史が浅いわが国とすべき点が多いように思われる。（なかじま・みねお）